

大変危険です。

子どもの誤飲!!

子どもは「はいはい」や「伝い歩き」をするようになると、手に触れたものを何でも口に入れるようになります。

公益財団法人 日本中毒情報センターの中毒110番への問い合わせは5歳以下の小児、特に**生後6カ月～2歳未満**の乳幼児の誤飲事故が大部分を占めています。

下の絵は誤飲事故の多いものです。このようなものがお子さんの**手**の届くところに放置されていませんか？

たばこ (加熱式含む)



くすり



化粧品



洗剤・洗浄剤、漂白剤



家庭用殺虫剤、防虫剤
(殺虫スプレー、ホウ酸団子など)



危険がいっぱい!



カー用品、灯油



芳香剤、消臭剤



乾燥剤、保冷剤



文具、おもちゃ、電池

ストップ!! 子どもの誤飲事故

▼大人がちょっと目を離した際に起こります!!

誤飲事故は、台所仕事をする、電話にでる、洗濯物を干すなど、子どもからほんのちょっと目を離した際に、あるいは大人が見ている目の前でも起こります。

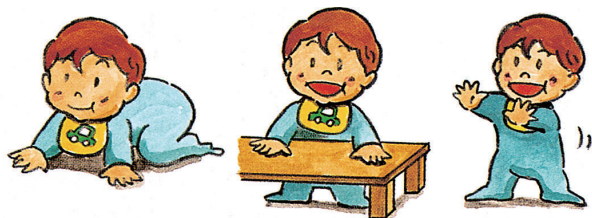
詳しくは、日本中毒情報センターwebサイト <https://www.j-poison-ic.jp> の「一般の皆さま」をご覧ください。

▼大切なことは、事故の防止です。

子どもの誤飲事故は、子どものまわりにいる大人が注意することで防げます。注意するものは、子どもの年齢に応じて変わります。

日頃から危険なものを子どもの手の届かない高い所か、鍵のかかる所に保管する心がけが必要です。

●年齢に応じて子どもの目線も変わります。



年齢の目安	注意するもの (後始末や保管管理)
6カ月～12カ月	床や畳など、低い位置のものに注意 たばこや吸殻、床の上のホウ酸団子や液体蚊取り
1歳～2歳	テーブルの高さにあるものにも注意 (台に登ることがある) リモコン・玩具・キッチンタイマーの電池 洗面台や流しの下洗剤、ポリタンクの灯油ポンプ 防虫剤、鏡台の化粧品、シャボン玉液などの玩具
3歳～5歳	高い場所にも注意 (行動範囲がより広がる) 棚の上の救急箱、引き出しの中のくすり 冷蔵庫の中のシロップ薬、流しの漂白中のコップ



日本中毒情報センター
webサイト

子どもの誤飲事故が起こったら 応急手当の基礎知識

- ・意識がない、けいれんを起こしているなど、すでに重い症状がある時は、直ちに救急車を呼びます。意識があり、呼吸・脈拍に異常がない場合は、何を、どの位の量を誤飲して、どの位の時間が経っているのかを確認し、症状がある時は、すぐに医療機関を受診します。
- ・家庭で無理に吐かせると、吐いたものが気管に入ってしまうことがあり危険です。下表のように牛乳や水を飲ませて薄めるとよいものもありますが、飲ませるとよくないものもあります。

誤飲したもの (赤字のものは吐かせてはいけません)	牛乳を飲ませる	水を飲ませる	理由
石油製品 (灯油、マニキュア、除光液、液体の殺虫剤など)	×	×	・吐かせたり、牛乳または水を飲ませることで吐きやすくなると、吐物が気管に入りやすくなり、入ると肺炎を起こす。
容器に「酸性」または「アルカリ性」と表示されている製品 (漂白剤、カビ取り剤、トイレ/パイプ/換気扇用洗剤など)	○	○	・誤飲時にのどや食道に「やけど」を起こしており、吐かせると薬剤が再びのどや食道を通るため「やけど」がひどくなる。 ・牛乳または水は薬剤の「やけど」を起こす作用を和らげる。
防虫剤 (しょうのう、ナフタレン、パラジクロルベンゼン)	×	—	・しょうのう(樟脳)は吐かせると、けいれんを起こしやすくなる。 ・防虫剤は牛乳に含まれる脂肪に溶けて体内に吸収されやすくなる。
たばこ(葉、吸殻、加熱式含む)	×	×	・たばこの有毒成分「ニコチン」が体内に吸収されやすくなる。
界面活性剤を含む製品 (洗濯用や食器用の洗剤、シャンプー、石けんなど)	○	○	・牛乳または水はのどや食道、胃に対する界面活性剤の刺激を和らげる。
石灰乾燥剤、除湿剤など	○	○	・牛乳または水は薬剤の「やけど」を起こす作用あるいは刺激を和らげる。

×:行ってもいけない、○:行ったほうが良い、—:どちらでもない

中毒110番 一般専用電話 判断に迷ったら問い合わせを！

*あわてずに誤飲したものを手に持って、お子さんの年齢や体重、誤飲したものの正確な名称、飲んだ量など事故の状況をお伝えください。

大 阪：072-727-2499 つくば：029-852-9999

(365日 24時間対応)

(365日 9~21時対応)

化学物質(たばこ、家庭用品など)、医薬品、動植物の毒などによる中毒事故が実際に起きて、どう対処したらよいか迷った時にご相談ください。応急手当や受診の必要性を薬剤師、獣医師がアドバイスします。

ただし、異物誤飲(プラスチック、石、ビー玉など)や食中毒、慢性の中毒(アルコール中毒、シンナー中毒など)や医薬品の常用量での副作用についての相談には応じていません。



たばこの誤飲

■小児の誤飲事故が一番多いのは「たばこ」です

中毒110番への5歳以下の誤飲・誤食事故の相談で一番多いのは、たばこ(吸殻、加熱式を含む)です。たばこ誤飲事故専用電話を含めると、1日10件以上の相談が寄せられます。

たばこや灰皿を小児の手の届く場所に置かないようにしましょう。

また、ジュースやビールの空き缶を灰皿の代わりに使うのはやめましょう。



■「たばこ」を食べてしまったら

症 状

30分～4時間後に吐いたり、顔が青白くなり、よだれや冷や汗が多く出たり、元気がなくなったりといった症状が現れます。

その時の対応

1. たばこの葉や吸殻を大量に(紙巻たばこ2cm以上、加熱式1本以上)食べた時、あるいは、灰皿の水などたばこが浸かった液を飲んだ時は、すぐに医療機関を受診します。
2. 乾いたたばこを少量(紙巻たばこ2cm未満、加熱式1本未満)食べた時は、症状がなければ家庭で経過を観察します。経過観察中に症状があらわれた時はすぐに医療機関を受診します。まる1日(24時間)経って異常がなければ安心できます。

【注意】 たばこに対する感受性は個人差が大きく、少量でも症状が出る場合があります。

たばこ誤飲事故専用電話
(自動音声応答による情報提供)

072-726-9922 (365日 24時間対応)